男子ハンドボール競技におけるクロアチアユースおよびジュニア代表の攻撃の特徴

髙野 颯太（201711955、ハンドボールコーチング論）

指導教員：會田 宏、藤本 元、山田 永子

キーワード：遅攻,攻撃成功率,ミドルシュート

【目的】

ハンドボールの強豪国においては，若い世代から国際競技力の高い国々と切磋琢磨している．その代表的な国の 1 つである男子クロアチア代表の近年のアンダーカテゴリーの成績をみると，2017 年に開催されたユース（U19）世界選手権においては 4 位であったが，その 2 年後の 2019 年にユースと同一世代が出場したジュニア（U21）世界選手権では 2 位と順位を上げている．

本研究では，クロアチアにおけるユースおよびジュニア代表の攻撃様相とシュートプレイを分析して，クロアチアアンダーカテゴリー代表における攻撃の特徴を明らかにする．

【方法】

2017 年男子ユース世界選手権と 2019 年男子ジュニア世界選手権においてクロアチアの予選リーグの試合（計 9 試合）を標本とした．(1) 攻撃様相については攻撃全体,攻撃局面別,防御隊形別,数的関係別に攻撃回数，得点数，ミス数，シュート数，攻撃成功率，ミス率，シュート成功率の 7 項目を分析した．(2) シュートプレーについてはシュートエリア，シュート種類，最終結果の 3 項目を分析した．

分析結果は，対応のない t 検定を用いて統計処理した．

【結果と考察】

(1) 攻撃様相

試合全体の攻撃回数は，ユース代表（66.4 回）からジュニア代表（56.5 回）にかけて有意に減少した（表 1）．また,攻撃成功率はユース代表（49.1%）からジュニア代表（59.3%）に有意に増加した．クロアチアジュニア代表の攻撃成功率（59.3%）は，大会の優勝国であるフランス（59.7%）と比較しても高く（山田 2019），2019 年男子世界選手権の優勝国デンマーク，準優勝国ノルウェーと同水準であった．クロアチアの攻撃成功率がユースからジュニアにかけて大きく増加した原因として，試合全体でのミス率が 15.9%から 9.8%に減少したこと(表 1)が考えられる．また，遅攻の生起率が 53.6%から 73.0%に高まり，その攻撃成功率が 39.8%から 55.8%に有意に増加したこと， 遅攻のミス率が 21.3%から 11.5%に有意に減少したことも全体の攻撃成功率を高くした原因になっていると考えられる．

また，速攻の生起率がユース代表（38.4%）からジュニア代表（22.2%）にかけて有意に減少し，6 対 6 の攻撃成功率が 43.7%から 59.9%に有意に増加した．これらのことからクロアチアジュニア代表は遅攻での攻撃を武器に戦い,6 対 6 の攻撃を重点的に強化したと考えられる．

(2) シュートプレイ

ミドルシュートのシュート成功率がユース代表（29.8%）からジュニア代表（65.5%）にかけて有意に増加した． また，ロングシュートのシュート成功率も 51.2%から 65.6%に有意ではないが増加した．この原因として，クロアチアジュニア代表のチーム平均身長が 195.3cm であり，参加 24 ヵ国の中で 1 番高かったことから，クロアチア代表はバックプレーヤーに大型プレーヤーを置きシュート成功率を向上させたと考えられる．

【結論】

クロアチアの攻撃の特徴として，ユースからジュニアにかけて①試合全体と 6 対 6 の攻撃成功率が高くなったこと，②遅攻のミス率が低くなり，攻撃成功率が高くなったこと，③ミドルシュートとロングシュートのシュートが上がったことの 3 点が示された．

表１　攻撃の全体像

	ユース(n=5)	ジュニア(n=4)	t値	
攻撃回数(回)	66.4 ± 3.8	56.5 ± 2.6	4.36	*
得点(点)	33.0 ± 4.1	33.5 ± 2.4	-0.216	
攻撃成功率(%)	49.1 ± 6.2	59.3 ± 1.7	-3.132	*
ミス率(%)	15.9 ± 5.0	9.8 ± 1.9	2.291	
シュート成功率(%)	59.0 ± 10.1	66.4 ± 3.1	-1.401	

*:p＜0.05